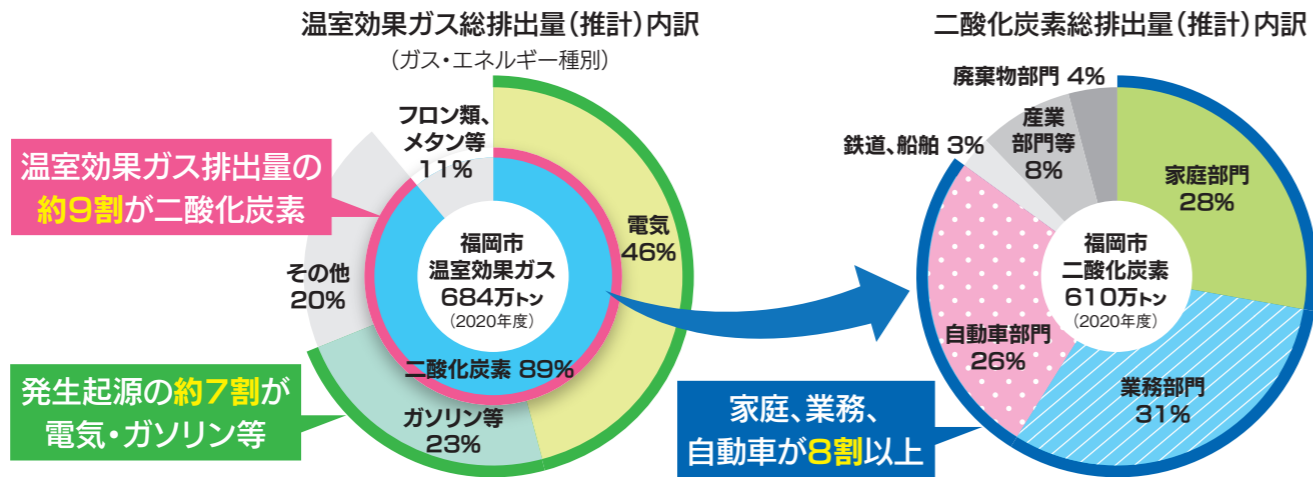


福岡市地球温暖化対策実行計画について

1 福岡市域の温室効果ガスの排出状況(2020年度)



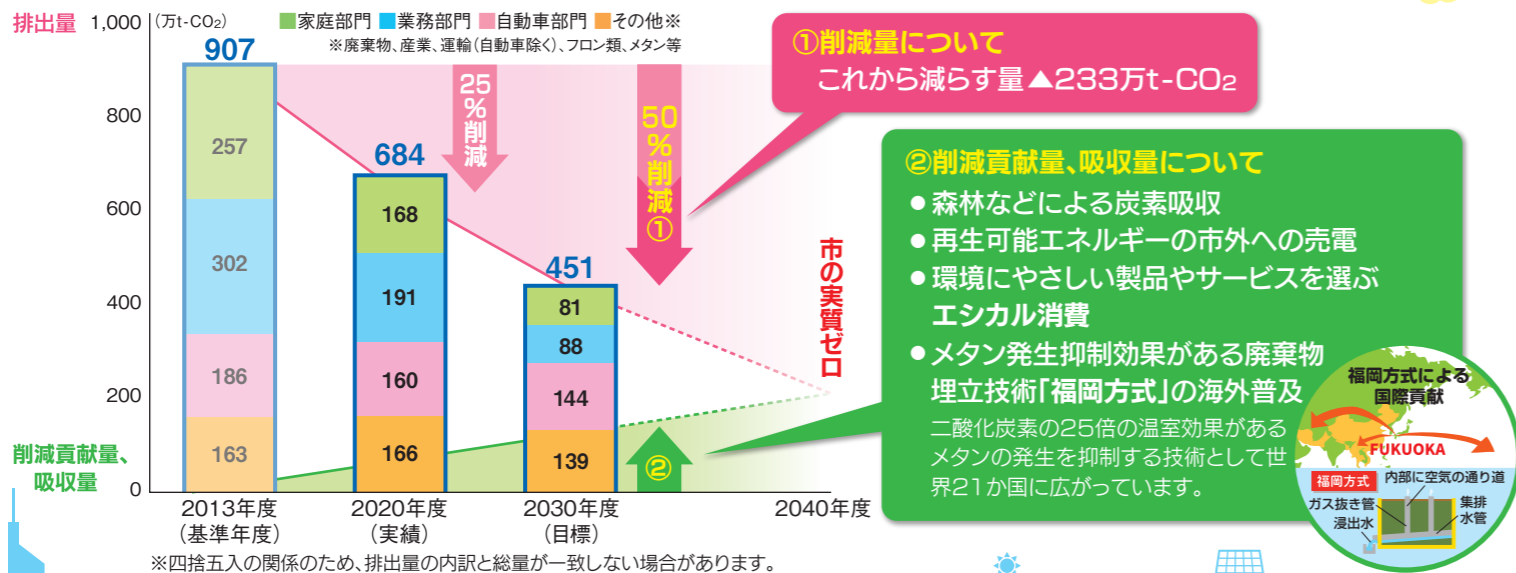
2 めざす姿

カーボンニュートラルを実装した都市をめざして
チャレンジ目標 2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロ

3 2030年度目標

- 目標① 市域の温室効果ガス排出量: **50%削減**
- 目標② 市外への温室効果ガス削減貢献量、吸収量: **100万t-CO₂**

※基準年度:2013年度 計画期間:2022~2030年度
※対象とする温室効果ガス:地球温暖化対策推進法第2条第3項に規定されている7種類



福岡市役所
自身の目標
エネルギー起源
二酸化炭素排出量
70%削減

チャレンジ! 脱炭素 福岡市地球温暖化対策 実行計画 (概要版)

カーボンニュートラルを実装した都市をめざして



脱炭素

(カーボンニュートラル)とは
省エネの取組みや再エネ等の活用により、温室効果ガス排出量を減らし、最終的な排出量と森林などによる吸収量を等しくすることです。

脱炭素社会(温室効果ガス排出量実質ゼロ)をめざした動き

気候危機

- 国内外で気象災害が激甚化・頻発化しています。
- 気候変動の影響は、福岡市にも及んでいます。

1950年7月20日 最高気温 **33.4℃**

2018年7月20日 最高気温 **38.3℃**

世界 パリ協定において「21世紀後半に世界全体で温室効果ガスの排出を実質ゼロにする」ことをめざし、各国で取組みが進められています。

日本 「2050年までに脱炭素社会の実現をめざす」という方針のもと、「2030年度の温室効果ガス排出量を46%削減(2013年度比)」という目標が示されました。

福岡市 世界や日本が目指す脱炭素社会の実現に積極的に貢献するため、「2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロ」の実現を目指した取組みを行っています。

削減: 省エネ (LED), 再エネ活用 (太陽光, 風力)

実質ゼロ: 削減 = 排出量 - 吸収量

吸収: 森林で吸収, 藻場などで吸収

お問い合わせ

福岡市環境局脱炭素社会推進部脱炭素社会推進課

〒810-8620 福岡市中央区天神一丁目8番1号 TEL 092-711-4282 FAX 092-733-5592

環境局ホームページ <https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/>



福岡市環境局

福岡市 環境局 検索



- 福岡市 -



脱炭素社会に向けて一人ひとりができること

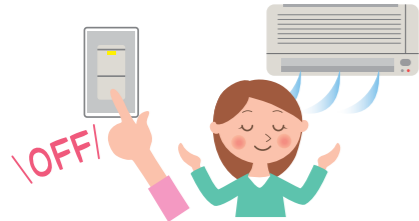
家庭部門では、2030年度にかけて二酸化炭素の排出を、世帯あたり年間470kg削減する必要があります。家庭をはじめ、職場や学校など様々な場面で、二酸化炭素の排出削減につながる、記載の取り組みにチャレンジしましょう。

家庭の取組み

住まい

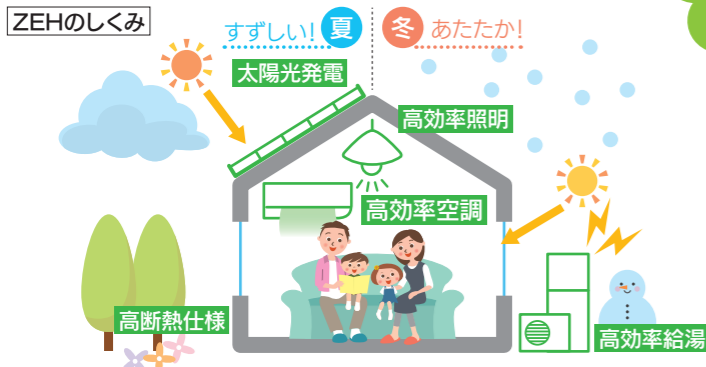
■身近な省エネ行動を実践する

過剰な照明、冷暖房の利用を避ける、省エネ家電・機器を利用するなど



省エネ取組例	年間削減効果
☑ LED ランプに取り替える	▲23kg
☑ 照明は必要なときだけつける (点灯時間を1日1時間短縮)	▲0.8kg
☑ エアコンは必要なときだけつける (1日1時間短縮)	▲4.7~10.2kg
☑ 入浴は間隔をあけずに入る	▲86kg
☑ シャワーを不必要に流したままにしない	▲29kg
☑ テレビを見ない時は消す (1日1時間減らす)	▲4kg

- 省エネ性能が高い住宅(ZEHなど)を新築、購入する
- リフォーム時は内窓の設置や複層ガラスへの交換、壁や天井への断熱材を使用する



▲380kg
-CO₂
省エネ性能を20%向上した場合

暮らし

■環境ラベルを確認し、購入の参考とする

「エコマーク」や「FSCロゴマーク」など

ライフサイクル全体をとって環境負荷が少ない

適切に管理された森林の木材が使用されている



- 家電や機器の省エネ性能を比較して選ぶ



- 日々の買い物や外食での食品ロスを減らす
それでも出た生ごみは堆肥化などの資源化に取り組む

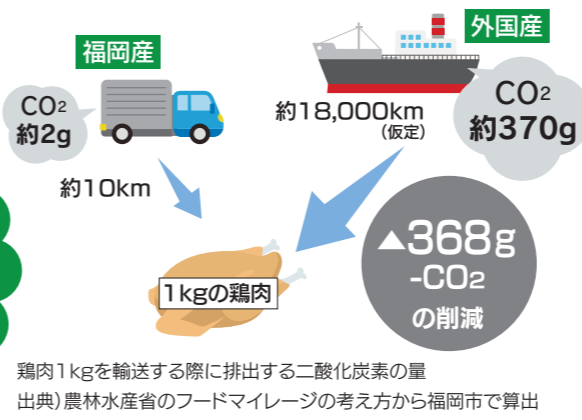
▲84kg
-CO₂
食品ロスを半分に減らした場合

- リフューズ(不要なものを断る)に取り組む
- 簡易包装された商品を選択する
- マイバッグやマイボトルを使用する



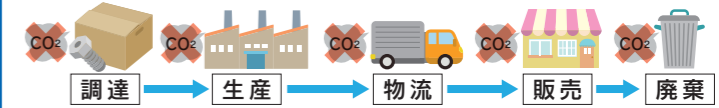
- 新鮮な地元食材を使用する

→食品配送に係る環境負荷低減につながります



企業の取組み

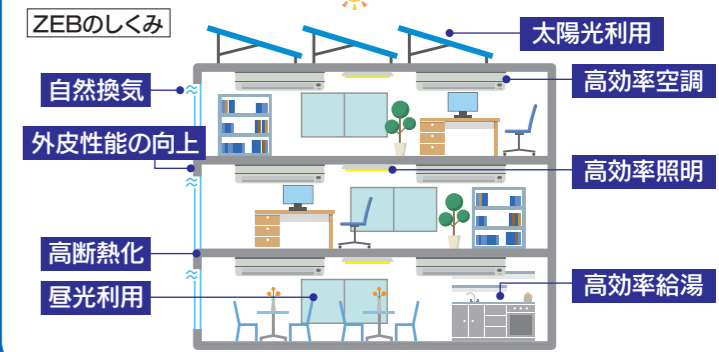
- 事業者は取引企業とともにサプライチェーン全体での温室効果ガス排出削減に取り組む



- 省エネ性能が高い建物(ZEBなど)の建築、改修を行う
- 更新時に省エネ性能の高い機器を導入する

▲206kg
-CO₂
高効率サーバを1台導入した場合

▲8,600kg
-CO₂
ビルに高効率給湯器を導入した場合



共通の取組み

再エネ

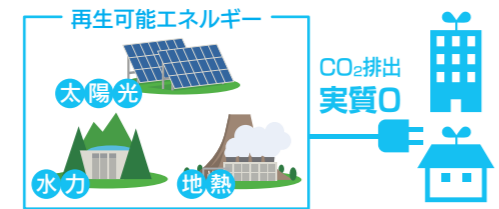
- 住宅やビル・倉庫等への太陽光発電設備や蓄電池、HEMS*(ヘムス)やBEMS*(ベムス)を導入する

※エネルギーの消費を監視/制御するシステムのこと

- 再生可能エネルギー由来の電力を積極的に利用する

テナントに入居する時には再生エネルギー由来電力を利用できる物件を選択する

再生可能エネルギー由来の電気プランへの切り替えでCO₂排出が実質ゼロの電気を使えます。



移動

- 徒歩や自転車、公共交通機関の利用を心がける

- 目的に応じてオンラインを利用する



▲125kg
-CO₂
車に替えて自転車を利用した場合

※往復4km(片道2km)240日使用した場合(国土交通省資料を基に試算)

- シェアリングサービスを利用する

→自家用車の保有割合の低下につながります



- エコドライブを心がける

事前の走行ルート確認、アイドリングストップなど



※年間平均走行距離10,000km、燃費改善率10%、平均燃費20km/Lとして算出

▲115kg
-CO₂
エコドライブをした場合

- 電気自動車、燃料電池自動車、プラグインハイブリッド自動車を導入する

→走行中のCO₂排出量をゼロに、または低減することができます



▲800kg
-CO₂
電気自動車を導入した場合

※年間1万km 走行した場合

その他

- 森林や海の保全活動に参加する

- 使えるものを大事に使用する

「フリマアプリやリユースショップを利用する」



▲62kg
-CO₂
購入する服の10%を古着にした場合

世界初 福岡市では、下水汚泥を処理する過程で発生するバイオガスから水素をつくり、燃料電池自動車(FCV)へ供給する世界初の水素ステーションを開設しています。FCVが地球を1周以上(42,000km)走行できる水素を1日で製造することが可能です。



※中の数字は年間のCO₂削減効果(福岡市試算)